

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月16日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892500075		
法人名	株式会社 ライフケアサービス		
事業所名	グループホーム 喜楽	ユニット名	
所在地	〒311-4615 茨城県常陸大宮市下伊勢畑948-8		
自己評価作成日	平成25年3月5日	評価結果 市町村受理日	平成25年6月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0892500075-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0892500075-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年4月18日	評価確定日	平成25年6月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>1. 少人数（1ユニット）の施設として、入居者様一人一人に、優しく語りかけ、笑顔で過ごせるように職員一同そっと手を添える優しい介護を心掛けております。職員はいつも笑顔いっぱいです。</p> <p>2. 静かな環境で、ゆっくりゆっくりと楽しい時間を過ごしていただいております。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は山間の集落に位置し、近隣には別荘として利用されている住宅も点在するなど、風光明媚な場所に立地している。</p> <p>通所介護事業所を併設しており、通所介護事業所の休業日である日曜日にグループホームの家族会を開催するなど、多目的に活用している。</p> <p>利用者は毎朝ラジオ体操を日課とし、体を動かすことを習慣としているほか、職員が事業所に愛犬を連れて来ることがあり、利用者は動物とのふれ合いの時間を楽しんでいる。</p> <p>職員は利用者を家族同様に思いながら職員間の連携を図ってサービスを提供しており、利用者から厚い信頼を得るとともに、遣り甲斐を感じながら日々の支援にあたっている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もが理解出来るように壁に理念を貼り出している。	職員で話し合い「地域との交流を大切に」とのキーワードを含んだ、地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を作成するとともに、居間兼食堂に掲示している。 職員は月1回のミーティング時に理念を唱和して共有を図り、具体的なケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のクリーン作戦などに参加している。	利用者は散歩へ出かけた際に近隣住民と会話を交わしながら野菜を分けてもらったり、職員は年4回地区の清掃活動や年1回の草刈りに地域の一員として参加している。 事業所は自治会に加入しており、職員が回覧板を届ける際には地区長宅へ立ち寄って挨拶し、事業所への理解を図っている。 地域のボランティアや幼稚園児の訪問を受け入れ、手作りプレゼントを貰ったり、一緒に歌やゲームに興じて楽しく交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取り組みはしていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご家族の話から意見、要望を聞くことができる。	年1回家族会を開催し、お笑い芸人の訪問を受け入れ、利用者と家族等、職員が和やかに歓談するなどしているが、運営推進会議を開催するまでには至っていない。	運営推進会議は年間計画を立て、市職員や地域包括支援センター職員、家族等、近隣住民などに参加を呼びかけ、2ヶ月に1回開催することが望まれる。 会議では外部評価で明らかになった課題などについて話し合い、委員の協力を得ながら改善に取り組むことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の更新手続きや空部屋状況などを介護高齢課と連絡を取りあっている。	職員は市担当者に空室状況を報告したり、要介護認定申請の手続きのために介護高齢課を訪問するなど、日頃から協力が得られるような関係づくりをしている。 運営推進会議の参加メンバーについて相談をしたところ、「地域包括支援センター職員にも参加依頼をすると良い」などの助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の行動を十分理解した上でケアを行っている。	現在一人で外出する利用者はおらず、職員は玄関や窓を施錠せず自由に出入りができるように支援するとともに、身体拘束をしないケアに努めている。 職員が身体拘束の具体的な禁止行為を理解できるように「身体拘束禁止事項」を事務所内に掲示するとともにマニュアルを整備し、月1回のミーティング時に職員で共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で虐待行為が行われていないか、日々確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	対応が必要な時に支援出来る体制が万全でない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の思いを察し、入居者様本意の運営を行っている。	家族等には家族会開催時に気軽に意見や要望などを出してもらえるよう働きかけているほか、職員は家族等の面会時には事務所や利用者の居室で時間をかけて話を聴くように努めている。 把握した要望等は申し送り時に職員で共有するほか、介護日誌に記録している。 出た意見等を受け、利用者が折り紙で造花を制作できるように作り方を調べたり、材料を購入するなど、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃よりコミュニケーションを取るよう心掛けている。月1回の会議の時に意見を出してもらうようにしている。	月1回代表者が参加するミーティングを開催し、職員の意見や要望を聞くように努めている。 職員から日頃の職員不足に対する訴えがあり、代表者や管理者、職員で改善に向けて話し合い、安心して働ける職場づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作る際も希望休を聞き、作成している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加をしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今のところ、行っていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の面談の時に本人の要望を聞き、本人の気持ちを受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯や思い・不安を聞き入れて本人の気持ちを受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	改善に向けて必要なサービスに取り組むよう努力している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという考えを皆で共有して日常の中で教えて頂く場面が多い。又、そうゆう場面を多くする工夫や声かけにつとめている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子、職員の思いを伝え、本人を支える為に家族の方に協力して頂く。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から通院している病院に行っている。近所の方が面会に来てくれている。	面会時に家族等から話を聞き、利用者のこれまでの生活を把握するように努めている。 職員は利用者の親戚宅への訪問や自宅への外泊、墓参りが家族等と一緒にできるよう連絡を取るなどしているほか、併設する通所介護事業所に利用者の友人が利用する日には一緒に過ごすことができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が女性の方に限られている為、自然に話がはずみ、趣味などで同じ時間を共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても手紙や電話などで、相談に応じている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	話し方や顔の表情、仕草等で意志を推測し確認している。	入居時のアセスメントにおいて、家族等から利用者の趣味や交流のある人などを聞くほか、職員は日頃から利用者にとどのように暮らしたいか問いかけるなど、意向を把握して利用者本位のサービスを提供するよう努めている。 利用者の言葉にならない思いなどは、日々の支援の中で表情や態度から気付いたことを業務日誌や介護記録に記載し、月1回のミーティングや毎朝の申し送り時に職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談でこれまでの生活状況を聞き、これまで送られてきた暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを理解して、出来ることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で入居者様の思いや意見を聞き反映させるようにしている。又、職員全体で会議を開いている。	利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について職員で話し合うとともに、利用者や家族等から聞き取った思いや意向と定期的なアセスメントを基に、介護支援専門員が介護計画を作成し、利用者や家族等の同意を得ている。 介護計画にそったモニタリングの記録を作成するまでには至っていない。	モニタリング表を作成し、介護計画が実施されているかを確認するとともに、評価につなげることが望まれる。 改めて書類を増やすのではなく、日々の記録の中で工夫することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の暮らしの様子や本人の言葉などを記録し全ての職員が把握出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院などの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して地域で暮らしを続けていけるよう、区長、駐在、消防機関と連携を取り支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族対応の受診となっているが、不可能な場合は職員が代行を行っている。	利用者と家族等が希望する入居前からのかかりつけ医への受診は、職員や家族等の付き添いにより行っている。 家族等へ受診結果を口頭で報告したり、家族等が受診の付き添いをする場合は利用者の様子を文書でかかりつけ医に伝えるなど、スムーズに受診ができるよう配慮している。 家族等から聞き取った受診結果は通院記録簿に記載し、職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいません。その状況に応じて対応しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人に関する情報の提供をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るところまで行き、後は家族と話し合いを持ち、医療行為が必要な場合は病院、その後の経過ごとに対応している。	入居時の早い段階において、利用者が重度化した場合の事業所としての対応方針を家族等に説明したり、意向を確認しながら同意を得るまでには至っていない。 看取りのマニュアルは作成しているが、事業所において看取りを行うかどうかを含めた方針を職員で話し合うまでには至っていない。	現在は重度化した利用者はいないが、今後の事業所での看取りの方針を職員で話し合い、早い段階から全利用者に決定事項を説明し、同意を得ておくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成・設置し、職員に把握してもらっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている。	地震による火災を想定した避難訓練を実施しているが、夜間想定を含めた定期的な避難訓練を行うまでには至っていない。 避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 避難訓練の実施記録を作成しているが、課題の改善に向けて話し合うまでには至っていない。 飲料水、米、乾麺等を備蓄している。	全職員が安心して夜間勤務ができ、就寝中の利用者の命を守るためにも、夜間想定を含めた年2回以上の定期的な避難訓練の実施が望まれる。 近隣住民に避難訓練への参加を粘り強く呼びかけるとともに、運営推進会議の開催と同時に避難訓練を実施するなどの工夫をし、日頃から支援が得られるような取り組みを期待する。 避難訓練で明らかになった課題の改善に向けて、職員で話し合う機会を設けることが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに気をつけている。	職員は利用者に対して「○○さん」と敬意を表した呼びかけを心がけるとともに、トイレ誘導時の声かけは耳元で話しかけるなど、一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。 前回の外部評価結果を受け、利用者の個人ファイルは鍵のかかる机の引き出しやロッカーに保管するよう改善を図り、責任ある取扱いと管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に決定をゆだね意思表示が十分に出来ない方でも表情や動きなどから希望を把握するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状況・思いに応えられるようにその人その人のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などを選ぶ際に本人の好きな物を選んでもらう。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、洗い物、拭き物など負担にならないように一緒に行っている。	栄養管理されている配食サービスの献立を利用し、利用者は食事の準備や野菜の下ごしらえ、後片付けなどの役割を担っている。 行事食として利用者の意見が反映された寿司や手打ちうどん、蕎麦を取り入れているほか、職員は利用者がぼた餅やデザートを手作りできるよう支援をし、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、一日の水分量を毎日記録し職員間で情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、入れ歯の手入れなどの声かけを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日常の様子を観察し、声かけを行っている。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを計りながらトイレ誘導し、排泄の自立ができるよう声かけと介助に努めている。 トイレは車いすでも対応ができる広さを備えるとともに、手すりが設置されており、介助が必要な状況でも排泄の自立に向けた支援ができるように配慮されている。 居室にポータブルトイレを配置しているため、夜間でも容易にトイレを利用することができ、失禁の予防に役立っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表に記入、把握し、便秘を改善するよう水分補給や適度な運動・お腹のマッサージなどを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日を決めて入浴している。季節の行事に合わせてお風呂の中にいろいろな物を入れてみたりしている。	週2回午後の時間帯に入浴ができる体制を取っているほか、利用者の体調により入浴ができない時や外出で不在の場合でも、誰もが週2回は入浴ができるように工夫をしている。 入浴が楽しみなものとなるよう、季節感を演出するために柚子や菖蒲を取り入れるほか、市販の入浴剤を利用している。 職員は利用者と歌を歌ったり、湯船でストレッチをしながら寛いで入浴ができるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを大切に個人の体調に合わせて好きなときに休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルにまとめて把握しやすいようにしている。服薬時は名前を復唱し、確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を把握・お願いして出来ることをして頂いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・ドライブに出掛けている。	職員は利用者が散歩や食品の買い物に出かけられるように支援しているほか、家族等の協力を得ながら墓参りや外泊などができるように連絡を取り合っている。 普段行けないような場所にも車を利用し、神社や仏閣に出かけたり、観光地の公園へ花や野鳥を見に行けるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設側で個々の金銭を預かり金として、保管管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きなききに電話をかけられるようにし、プライバシーを配慮して居室に持参して使用して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季が感じられるよう、一緒に飾り付けを行い安全に暮らせるよう配慮し、生活の匂いや音が感じられるよう工夫している。	居間兼食堂はコンパクトな造りとなっているが、南向きの窓は明るく、山間の自然が一望できる。 壁面には利用者と職員が折り紙で制作した季節の作品が飾られているほか、観葉植物や加湿器が配置され、居心地のよい空間となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたり、お話出来るスペースを提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に今まで使用していた身の回りの物を持参して頂けるよう家族に協力をいただいている。	利用者は家族等の協力を得ながら自宅で使い慣れた寝具や電化製品、鏡などを持ち込み、居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。 職員は家族の写真やカレンダー、ぬいぐるみ、利用者自作の手芸や折り紙作品などを飾り、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋が分からなくなる方には、居室の入り口に名札、ぬいぐるみ等をぶらさげたりと状況に応じて対応している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 喜楽

作成日 平成25年7月3日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催	2カ月に1回の会議の開催	運営推進会議開催を2カ月に1回のペースで開催できる様に計画を立てる。	26年度
2	26	チームで作る介護計画とモニタリングの実施	モニタリング表を作成	日々のモニタリングを行い会議を開き評価を行う。	26年度
3	33	看取りの方針	事業所での看取りの方針を話し合い決める。	方針を決め決定事項を説明し、同意を得る。	26年度
4	35	避難訓練の実施	夜間想定を含めた年2回以上の定期的な避難訓練の実施	年2回以上の避難訓練の実施と近隣住民への参加の呼びかけを行う。	26年度
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。